

深谷市立榛沢小学校
学校だより

令和3年度 10月号

発行 令和3年9月28日



はんざわ

児童数 176名

教職員数 26名

学校教育目標
目指す児童像

ふるさとを愛し、自己の夢の実現に向けて努力する児童の育成
進んで勉強する子 思いやりのある子 体をきたえる子



子供の心の基盤を育む



深谷市立榛沢小学校長 横田 茂男

心身ともに豊かな調和のとれた発達には、それぞれの時期で発達上の課題をクリアしていくことが大切です。一般に、乳児期には信頼感、幼児期には自立感、少年期には活動性と自発性、青年期には自我の確立が大切だと言われます。

発達課題は順次積み重ねられるもので、同時に獲得したり一足跳びに達成できるものではありません。乳児期の信頼感は、授乳や抱っこ、おんぶなどを通し、子どもの生理的な欲求や希望を充足することにより、形成されます。小学校段階では、好奇心を尊重してあげること、思い切って活動させてあげること等が大切です。高学年では、目標に向かって計画的に実施できる力を高めていきたいです。遊びを通した子ども同士の関わり合い、役割分担の遂行、自然の中での動植物に触れる活動、異年齢交流等々が大変重要な要素となります。

イルカとトレーナーとの関係は興味深いです。「待つ」ことができないトレーナーに育てられたイルカは、トレーナーが教えてくれるまで何もしないイルカになってしまうそうです。反対に、イルカ的好奇心を大切にし、信じて待って、できた時に褒めてあげると、イルカはいろいろな技を自分から覚えていきます。私たち大人は、「信じて委ねる」「待つ」「達成できたときは褒める」態度を身に付けたいです。

ミシン学習 14日 5年



写生会(色めり) 16日 2年



アサガオのつる外し 21日 1年



ブロッコリーの苗植え 22日 3年



9月の行事から

福祉の心を育む交流事業

本校は、お年寄りの方々が生活している「特別養護老人ホーム エンゼルの丘」と交流を進めています。お年寄りの方々のお陰で今の日本があります。交流は、子供たちがお年寄りの方々に対して感謝の念や思いやりなど豊かな心を育む機会であると捉えています。

一昨年は、5年生が施設を訪問し、直接、お年寄りと交流することができました。肩もみをしてあげるなどの子供たちの優しい行いに感心しました。

今年度は5年生の訪問は叶いません。本校としては、施設が必要としている箱ティッシュを寄贈し交流を継続してまいります。そこで、環境福祉委員会が各ご家庭に箱ティッシュの寄贈を呼びかけ、寄せられた箱ティッシュを施設の代表の方にお渡しします。ご協力をお願いいたします。なお、施設からは、お返しとして学校へ児童用図書が贈られます。